

しかん 止観の実践

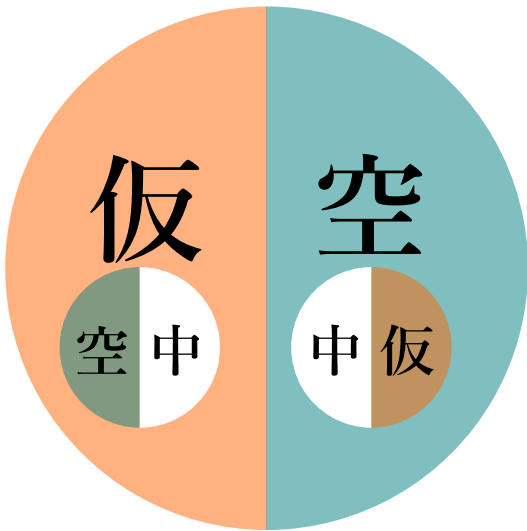
(2016年10月30日大瀧山にて)

心を練って一切の外境や乱想に動かされず、心を特定の対象にそそぐのを **止** といい、
それによって正しい智恵をおこし、対象を観るのを **観**
という。 いっしんさんがん **一心三観** によって行なわれる えんどん **円頓止観** が
最勝であるとされる。

(新・仏教辞典より引用)

一心三観のイメージ えんゆう (円融)

中



一瞬の想念で、仮と空を
ほうせつ 包摂した中観になること

このように、ひとつの対象で一
心三観が可能になると、さらに
一回り大きな系での仮観、空観
そしてまた中観と、果てしなく
対象の規模は大きくなる。

自然を通しての一心三観



けがん
仮観

対象となる物は今どのように見えて
いるのか、またはどのように感じる
か、そのありのままを捉える。



くうがん
空観



対象となる物は様々な因縁によって
そのようにあるのであり、また観測
者それぞれで捉え方は変わる。



ちゅうがん
中観



仮観、空観の両方を踏まえたうえで、
自分と対象が円かに調和した関係性を
イメージする。